

令和5年度 第3学期始業式 校長の話

明けましておめでとうございます。2024年が始まるとともに学年の成果をまとめる学期を迎えました。1・2年生は進級後に、3年生は卒業後の就職・進学が有意義なものとなるような目標を立ててほしいと思います。

以前にも話しましたが、目標達成のためには実践が不可欠です。人は決意するだけで生まれ変わった気持ちになりますが、決意するだけでは現実は何も変わりません。どんな些細な目標達成のためであったとしても、苦しい、辛い実践が待っています。それを覚悟して実践し続けていくうちに成長を感じられるようになり、辛く苦しい実践そのものが楽しくなります。筋トレが趣味という人がいますが、そういう人は今話したことはわかると思います。

ところで、私は年明けの出来事を通して、高校生である皆さんは、日々の生活において無理のない範囲で構わないのですが、我慢する・耐えるという経験を積んで、生きている間に訪れる数々の困難を安らかに乗り越える力を養うべきではないかと考えたところです。

皆さんご存じのとおり、1月1日に能登半島地震が発生しました。遠い北陸地方の出来事なので関心のない人もいるかも知れませんが、私は先月、石川県の農業高校である石川県立翠星高等学校の校長先生と電話で話をしたばかりだったので心配になり、メールをしました。

翠星高校の校長先生によりますと、その学校では本日3学期を迎えられるとのことですが、能登半島にある農業系の高校は大きな被害を受けながらも、地域の避難所対応もされていらっしゃるという返信をいただきました。

今週土曜日から、全国の高校3年生の約45%の生徒が大学入試共通テストを受験します。もちろん、被災地の高校3年生の中にも受験生はおりますが、その大学受験を控えた高校3年の生徒たちが近くの川から汲んできた水をバケツリレーでトイレに運んでいる映像がニュースで流れていました。

被災前と同じような受験に対するモチベーションを維持しながら、厳しい環境の中でも受験対策ができることは、日頃から将来の目標に対して真剣に向き合い、勉強に厳しく取り組んでいるからこそできることだと思います。

2024年の幕開けは地震だけではなく、航空機の事故もあり、海外では先の見えない戦争が続いている中ではありますが、年末年始の高校生・大学生・社会人がスポーツで競い合う姿から多くの方が元気付けられたと思っています。

都城農業高校の皆さんにも、それぞれ各自ができることを通して、この学校が地域を元気にする一年になることを期待して、今日のお話を終わります。

今年1年、頑張りましょう。

令和6年1月9日

都城農業高等学校

校長 山下 勉